

# 植物園整備検討に係る有識者懇話会(第4回)

<テーマ>

次の100年に向けた京都府立植物園像と施設  
整備について

京 都 府  
文化施設政策監  
植物園

# 本日、議論いただきたいこと

## 第3回有識者懇話会での主な御意見

- 示されたコンセプトは総花的で、100年のビジョンが見えにくい
- 100年の歴史を踏まえ、次の100年何を指すのかを共有してもらいたい
- ハード整備の内容が具体的にどのように配置されるかを議論したい



## 本日のテーマ

- ◆次の100年に向けた京都府立植物園像に関して
- ◆上記の考え方を踏まえた施設整備（配置図）に関して

# 府立植物園の現状分析

## 強み

### 【環境】

- 100年の歴史をもつ日本最古の公立植物園の一つ
- 世界都市である京都市内に位置
- 付近を流れる賀茂川を中心に、園周辺は良好な景観が形成
- 半木神社周辺に保存された賀茂川流域の原植生
- 非常に恵まれた来園アクセス
- 「大森文庫」をはじめとする貴重な書物集を保有

### 【取組】

- 継承されてきた高度な栽培技術
- 約300種類の絶滅危惧種を栽培保全
- 展示会、講演会等を通じた、園芸文化の普及
- 約7,000種類の園芸品種を栽培（古典園芸品種 約1,280種類）
- 日本最大級の温室で約4,500種類を展示、多数の国内初開花
- 17に及ぶ植栽エリアを整備
- 年間入園者数80万人（公立植物園のうち日本最多）

## 価値

生きた植物のコレクション 約12,000種類

## 課題

### 【栽培・研究】

- 府内の植生把握等、植物多様性保全に向けた取組の充実のため、標本庫等の施設整備や体制確保が必要
- 植物の個体情報や栽培記録等など、収集されたコレクションや長い歴史で蓄積された栽培ノウハウが効果的に活用されるよう、データ基盤の構築が必要

### 【生涯学習支援】

- 子どもたちをはじめとする利用者が、植物の魅力を楽しみながら学ぶことができるコンテンツの充実や施設整備が必要
- 植物の役割や保全の重要性を多くの府民に伝えるため、学校等への出前授業やデジタル発信等、植物園外への取組の拡大が必要
- 生涯学習施設として学生ボランティア、NPO等、幅広い対象・世代が活動に参加できる基盤の整備が必要

### 【魅力強化】

- 子育て世帯や若者世代のニーズを満たせるよう、これらの世代が魅力的に感じる施設の充実や取組の強化が必要
- 植物と京都文化の関わり等、京都ブランドを活かし、世界に向けた魅力の発信が必要
- 限りある府財政のもと、魅力ある取組や園整備を継続して進めるため、寄附等の外部資金活用や入園料体系の見直し検討等が必要

# 次の100年に向けた京都府立植物園像

## 将来ビジョン

- 植物が生態系にもたらす役割をわかりやすく伝え、未来への種をまく植物園として、京都から世界の生物多様性保全に貢献する



## コンセプト (基本方針)

- 誰もが楽しく学べる「学びの入口」として学習機能を強化
- 京都府内の植生把握等を通じた植物多様性保全への寄与



## 取り組むべき 内容

- これまでの府民の憩いの場の機能に加えて、博物館機能を拡大
- 次代を担う子供たちや若い世代向けの魅力を拡大
- 植物多様性保全に関する研究機能を拡大

# 次の100年に向けた京都府立植物園像（概念図）

次の100年の府立植物園  
現在の府立植物園

生物多様性センター等、  
他機関との連携

栽培  
・  
研究

世界植物の展示・観賞

園芸相談  
展示会

栽培技術等  
のデータ化

コレクションの維  
持・質向上による  
利活用の増加

保全につながる  
遺伝子データ等  
の利活用

生涯  
学習  
支援

わかりやすく  
面白い展示

植物園ガイドの  
実施

出前授業による  
植物学習

植物標本の閲覧・  
利活用

学生ボランティ  
ア、NPO等との  
協働

魅力  
強化

子育て支援  
快適な施設利用

憩いの場としての  
利用

植物観察・学習  
プログラム

体験型ワークショッ  
プの実施

生物多様性保全  
への理解促進

公園的機能

植物の博物館機能

# 植物園整備に向けた施策の具体的な方向性（第3回有識者懇話会後）

## 課題

## 実施すべき取組 (ソフト事業等)

## 想定される ハード整備

### 栽培

- ベテラン技術者の大量退職を控え、若手職員等へ技術継承が必要な状況
- 栽培記録、植生配置等の台帳整備が不十分
- バックヤードの老朽化
- 栽培に要するコスト上昇、予算不足

- コレクションの維持発展・活用促進**
- 優秀な人材の確保
- 学生インターンシップ
- バックヤードツアー、植物園の魅力発信
- デジタルを活用した技術継承
- 省エネ対策の検討

- 新しい栽培技術の発展を見据えたバックヤードの拡充・高度化
- 見せるバックヤードの整備
- 栽培用LED照明の導入

### 研究

- 府内絶滅危惧植物が増加傾向
- 栽培技術研究の情報発信が不十分
- 植物多様性の保全に関する研究に取り組む体制が未構築
- 府内の植生把握が不十分
- 新たな府内植物の標本を保管できる施設が未整備

- 体制確保**、大学等との連携体制の深化
- 地域ボランティア、**NPO**等と連携した府内自生地調査、植物採取、**標本作製**
- 栽培研究に関する取組の**深化**や府民向け情報発信
- 寄附金基金創設の検討

- 標本庫及び閲覧コーナーの整備
- 大森文庫や標本、研究成果の展示スペースの整備
- 研究者と職員が交流ができる場所の整備

### 学習教育

- 世代、ジャンルに沿った学習プログラム、デジタル化が未整備な状況
- 植物園の教育機能に対する認知度が低い
- オリエンテーション機能が未整備
- 子どもや若者の心に響く学習コンテンツ不足
- 観覧温室の老朽化および機能低下

- 学芸員的人材や**学生ボランティアの育成、確保**
- 幅広い学習プログラムの作成
- 教育機関や福祉施設等との連携、**出前授業**
- 植物に関する図書の充実
- 生物多様性学習に資するエリアの設置
- デジタルコンテンツの整備、**専門人材確保**
- 子ども、親子向けワークショップ

- 常設展示室、特別展示室（**園外も含め場所を検討**）
- 観覧温室のリニューアル
- 鳥の目視点で植物が観察できる吊り橋（キャノピーウォーク）
- 子ども連れ等の幅広い世代がワークショップ等で学習できる場所の整備

### 魅力

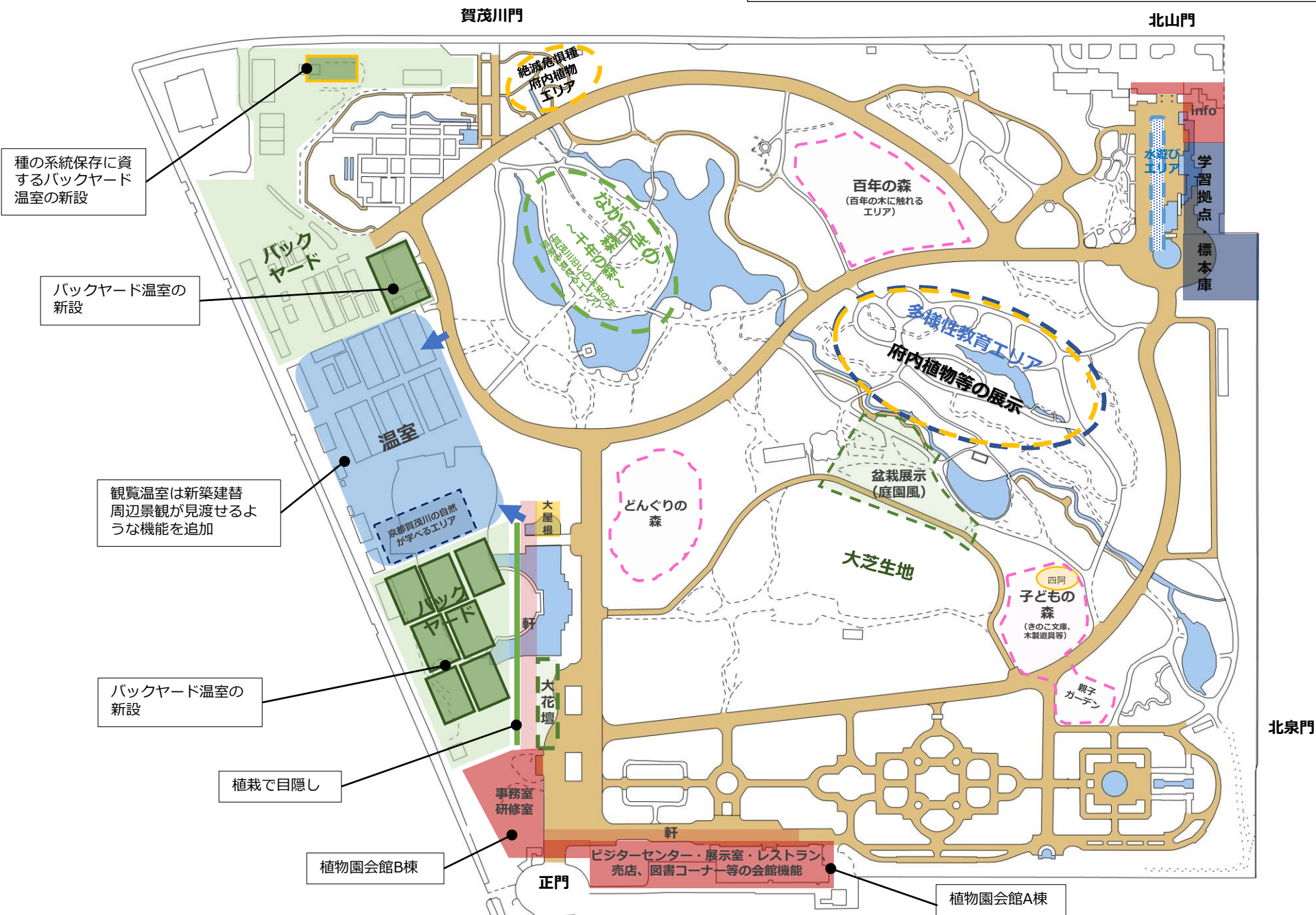
- 来園者はシニア層が中心で偏っている
- 雨天時や夏・冬の来園者数が少ない
- 来園者向け施設の老朽化及び機能低下
- 多様なニーズに応えた魅力的な情報発信が不十分
- 若者、子育て世帯のニーズに応じた施設整備が不十分
- 利用者にとって敷居が高い施設

- 府全域・世界に向けた情報発信**
- 京都の植物や植物文化を展示
- デジタルを活用した魅力的な情報発信
- デザインの洗練化及びコンセプトの統一
- 植物に触れることができるエリアの設置
- 独創的で目を引く植物の展示
- 恵まれた周辺環境を活かした展示や取組**
- 植物園の魅力向上に資するイベントや展示の実施

- ビクターセンター機能の設置
- 大屋根広場等の全天候型施設の整備
- 植物画等のギャラリーの設置、**アーカイブ化**
- トイレ、授乳室、休憩所等の来園者快適性向上に資する施設の更新、増設
- 植物園の魅力向上に資するカフェスペース等の整備
- インクルーシブデザインの施設整備

# 植物園整備に向けた施策の具体的な方向性

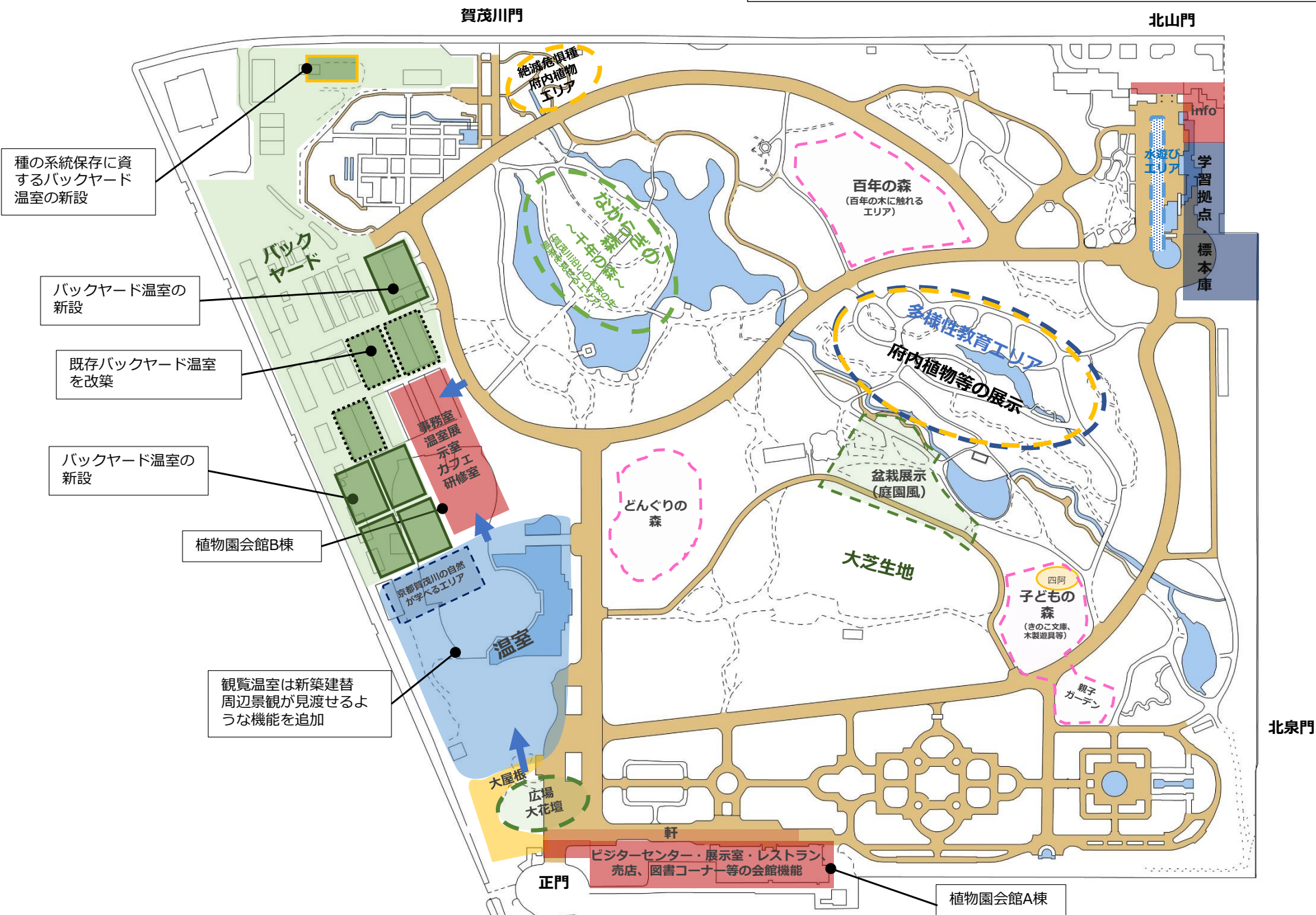
想定されるハード整備に基づく配置図1（温室北側配置）





# 植物園整備に向けた施策の具体的な方向性

想定されるハード整備に基づく配置図2（温室南側配置）





## 各配置図の特徴

	配置図 1 (温室北側)	配置図 2 (温室南側)	現在の植物園	
<p>正門 植物園会館</p> <p>子育て 若者向け魅力向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ビジターセンターや飲食施設、子育て関連施設等の来園者快適機能を強化</li> <li>正門から温室まで、雨に濡れることなく移動できるよう施設を配置</li> <li>未来くん広場は大芝生地横に移転し、子どもエリア（きのこ文庫含む）と四阿を整備</li> <li>現温室横の樹林地をどんぐり拾いができる森と位置づけ、ソフト機能を強化</li> <li>親子ガーデンを沈床花壇北に設置（子どもの森と一体で運用）</li> <li>北山門の噴水等を水遊びエリアに変更</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>温室奥に会館B棟を建設</li> <li>大屋根と広場花壇を組み合わせた広場設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>植物園会館 1 棟（平成 4 年建設）</li> <li>未来くん広場</li> <li>きのこ文庫</li> <li>森カフェ</li> <li>北山カフェ(IN THE GREEN)</li> </ul>	
<p>観覧温室</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新築（現温室が複雑な構造であり、水漏れ等の改善が見込めないため）</li> <li>デザイン等は今後の検討だが、100年持つ形状の温室を目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現温室北側に建替</li> <li>鏡池を修繕し、景観として活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現温室南側に建替</li> <li>鏡池は廃止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成 4 年に現地建替えにより建設（現在 3 代目）</li> <li>池に浮かんだ金閣寺と北山連峰のシルエットをイメージ</li> </ul>
<p>バックヤード</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>バックヤード拡充</li> <li>温室の建て替えに合わせ、バックヤード温室を複数棟建て替え</li> <li>上記建て替えに合わせ、「見せるバックヤード」を新築</li> <li>植物多様性保全に資する系統保存のためのバックヤード温室を増築</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>3 代目温室の建設に合わせ現バックヤードを整備</li> <li>絶滅危惧種保全温室 1 棟</li> </ul>	
<p>教育学習 研究機能</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>北山門に標本庫、学習拠点棟（常設展示等）を新設</li> <li>園地北側の百年の木が多い場所にツリーウォークや木に触れるエリアを設置</li> <li>植物生態園を多様性教育エリアと位置づけ、ソフト機能を強化</li> <li>京都賀茂川の自然が学べるエリアを設置し、ソフト機能を強化</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>植物展示場で栽培植物等を展示</li> <li>絶滅危惧種園で希少植物を展示</li> </ul>	

## 各エリアの説明

エリア名	エリアコンセプト	想定するハード整備、ソフト施策
植物園会館A棟	メインエントランスとして正門と一体的に整備 (入園しなくても府立植物園を楽しむことができる施設を配置)	ビジターセンター、展示室、レストラン、売店、図書コーナー、 ボタニカルショップ等
植物園会館B棟	快適性向上や植物理解を深めるための施設を整備 (バックヤードに隣接して事務室を配置)	温室展示室、研修室、カフェ、事務室等
子どもの森	大芝生地の横で、主に低年齢の子どもが、樹木の中で遊ぶエリア	きのこ文庫の移転・リニューアル、木製遊具等
百年の森	古くからある貴重な樹木が多い場所であり、主に高学年の子ども が樹木に触れ、学びながら遊ぶエリア	鳥の目視点で植物が観察できる吊り橋(キャノピーウォーク)等
どんぐりの森	どんぐり等の植物に触れあえるエリア	ワークショップ等
親子ガーデン	親子で植物に触れ、親しむことができるエリア	植栽エリア整備、親子ワークショップ 等
水遊びエリア	涼みながら子どもが遊べるエリア	地面から出る仕掛け噴水 等
学習拠点・標本庫	園内で行う学習の取組や植物多様性保全の取組を推進する拠点	標本庫、標本閲覧、植物多様性保全に関する展示、園内学習プ ログラムの提供、植物画ギャラリー 等
多様性教育エリア	植物生態園(自然に近い状態で栽培)の中で、生物多様性を学習 することができるエリア(植物生態園を学習面から魅力強化)	展示強化、デジタルコンテンツの整備 等
なからぎの森 (千年の森)	賀茂川流域の原植生が残されたなからぎの森で、自然を体感でき るエリア	現状の原生林の姿を保全、ガイドツアー 等
賀茂川の自然が 学べるエリア	賀茂川流域の原植生・自然や外来種等を学ぶことができるエリア	賀茂川流域の植生等を学習できる新規エリアの整備
絶滅危惧種展示	希少種の展示や植物多様性保全の取組をわかりやすく展示し、活 動を普及するエリア(絶滅危惧種園を強化)	展示強化、デジタルコンテンツの整備 等